

## 「安保法制懇」報告書を批判する 戦争国家への壊憲・改憲攻勢を押し戻そう

5月15日、「集団的自衛権の行使」を憲法9条違反としてきた歴代自民党政権の立場を根本的に変更し、日本を地球のどこにでも出向いて「戦争する国家」とするための「安保法制懇」（安全保障の法的基盤の再構築に関する懇談会）の報告書が安倍首相に提出された。これを受けて安倍首相は、同日午後6時から首相官邸で、報告書への政府の立場を説明する「基本的方向性」についての記者会見を行った。

第一次安倍政権でも、部分的に「集団的自衛権」の行使を可能にする「解釈変更」のための安保法制懇がつくられ、2007年4月から論議が始まった。ここでは一部の例（公海上で武力攻撃を受けた米艦防護、米国を狙った弾道ミサイルの自衛隊による撃墜）に関して「集団的自衛権」の行使を容認する報告書を、翌2008年6月に提出している。しかしその時には安倍は政権の座を降りており、この報告書はお蔵入りとなった。

首相の座に返り咲いた安倍は、すべてご本人と気脈を通じる面々で占められた2007年と全く同じ陣容の「安保法制懇」を任命し、集団的自衛権行使容認になみなみならぬ決意を燃やしていた。彼はそのために、法制局長官のクビをすげかえるというクーデター的人事まで強行した。

さて肝心の「安保法制懇」報告の内容である。2008年報告書との最大の相違は、幾つかの「類型」に絞って「集団的自衛権」行使を可能にさせるとした2008年報告書に比して、今回は、「安全保障環境」の大きな変化、とりわけ世界規模での「パワーシフト」、東シナ海、南シナ海での中国を軸にした多国間の領土紛争と、その中での「日米同盟の役割」の重要性を理由に、「有事」を想定した、より包括的な形での「集団的自衛権の行使」が想定されている。そのために、政府自身の憲法9条解釈がたびたび変化したことを口実に、「解釈変更」を正当化している。

「報告書」は述べる。「ある時点の特定の状況の下で示された憲法論が固定化され、安全保障環境の大きな変化に関わらず、その憲法論の下で安全保障政策が硬直化されるようでは、憲法論のゆえに国民の安全が害されることになりかねない」「それは主権者たる国民を守るために国民自身が憲法を制定するという立憲主義の根幹に対する背理である」と。なんと権力を主権者たる「国民」が縛るのではなく、時の政府自身がつねに「憲法制定権力」であるかのように振る舞うという恣意が、「立憲主義」の本旨だという常識外れの逆ギレである。

さらに述べる。憲法の平和的生存権と「生命・自由・幸福追求権」が基本的人権の根幹であり、この根幹を維持するためには「我が国の平和と安全が維持され、その存立が確保されていなければならない」し、「国権の行使を行う政府の憲法解釈が国民と国家の安全を危機に陥れるようなことがあってはならない」と。まさに「戦争する国家」への転換が現憲法の「平和的生存権」や「基本的人権」の名において強行されようとする、この転倒にはあきれるばかりだ。

「安保法制懇報告」は、憲法9条1項の「国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は永久にこれを放棄する」について、「放棄」したのは「我が国が当事者である国際紛争」での武力行使であって「自衛のための武力の行使」や「国連PKOや集団安全保障措置への参加といった国際法上合法的な活動」への「憲法上の制約はない」として、「集団安全保障」に基づく自衛隊の参戦も認めている。

安倍首相は一方で安倍内閣として「集団安全保障」に参加することはないとしながら、「集団的自衛権」行使合憲とする閣議決定を急いでいる。秋の臨時国会、そして年末に予定されている日米ガイドラインの改定が、ひとつの目安となる。まずは憲法9条を根本的に破壊した上で改憲へ。この安倍政権のクーデター的国家改造をくい止めるため、全力をあげよう。（国富建治／事務局）

### 目次 ▶ もくじ ▶ contents ▶ 目次 ▶ もくじ ▶ contents ▶ 目次 ▶ も

- 1 面 「安保法制懇」報告書を批判する ◆ 国富建治
- 2 面 福井地裁判決を生かして川内原発の再稼働を止めよう ◆ 木村雅英
- 「孤立の二人」ネタニヤフ・安倍首脳会談に緊急抗議！ ◆ 杉原浩司
- 3 面 《状況批評》勝ち急ぐこと、急がないこと ◆ 井上森
- 4 面 意見広告運動：平和構築のための新しい「物語」 ◆ 北原博子
- 憲法を読む『戦争のできる国へ』（斎藤貴男著、朝日新書） ◆ 天野恵一
- 5 面 反改憲ニュースクリップ（5/1～5/17）
- 6 面 私も一言（195） ◆ 青山晴江
- 集会・行動情報（6/1～6/17）

## 福井地裁判決を生かして川内原発の再稼働を止めよう ～川内原発動かすな! 東日本決起集会実行委員会から～

原子力規制委員会設置法が民主党政権下で成立してもうすぐ2年、規制委がいよいよ本領を発揮してきた。5月22日時点で規制委は、11サイト17基の原発再稼働審査を115回も実施している（実はこれ以外に非公開で事業者審査ヒアリングを頻繁に実施、川内原発については5月だけでも既に約50回実施）。3月13日には各原発の成績表（適合性審査状況）を出し川内原発の「審査書案」作成着手を決め、更に5月21日には高浜原発の審査促進を方向付けた。

イチエフ事故を踏まえていない欠陥だらけの新規制基準、地震対策も火山噴火対策もプラント評価も全く不十分なまま、また避難対策も住民理解も得られないまま、福島第一原発の放射能汚染水対策も廃炉への道も見えないまま、21日にはALPSが全系統停止となりイチエフを全くコントロールできていないままで、規制委は川内原発の再稼働を容認するつもりだ。何としても止めねばならない。

再稼働阻止全国ネットワークでは、東京現地と原発現地の両方で阻止行動を進めている。去る5月14日には、原子力規制委員会（六本木一丁目）のみならず全国の現地原子力規制事務所にも各地の仲間が申入れをする全国一斉抗議行動を実施し、各地のメディアに報道された。更に、5月29日には、規制委の姿勢と川内原発再稼働審査を糾弾するべく、規制庁との院内交渉集会も準備している。

一方、現地の再稼働の阻止に向けて、「伊方の家」を13年11月に、「川内の家」を14年4月に開設し、現地の反原発運動と協力しながら再稼働阻止の行動を準備している。

そんな中で、川内原発現地の「6.13県庁前行動」呼びかけに呼応して、「川内原発再稼働反対現地行動」ツアーを TENT ひろば・阻止ネット・たんぼぼ舎で構成する実行委員会が計画した。6月12日（木）から14日（土）に全国から鹿児島に駆けつけ、13日の県庁前抗議行動に参加するとともに、県議会や九電への要請行動、阻止ネット相談会、川内原発ゲート前抗議行動などの計画に、百人以上が参加することになる。

さらに同実行委は、「川内原発動かすな! 東日本決起集会」を5月29日（木）19時から明治大学リパティホールで開催し、私たち自身の「川内原発の再稼働を絶対させない!」という意志とその行動の決意を明らかにする。

5月21日には福井地裁が、大飯原発3、4号機の運転差し止めを命じる判決を出した。原子力発電に内在する本質的な危険と地震大国日本で基準地震動を超える地震で冷却機能を喪失する危険を認定し、憲法を尊重し「国民」の命を守る画期的な判決だ。しっかり生かして、原発再稼働と輸出を目論む安倍政権や「原子力マフィア」の暴走を止めたい。

決起集会と現地行動への参加と、応援カンパを呼びかける。  
（木村雅英／再稼働阻止全国ネットワーク）

## 「孤立の二人」ネタニヤフ・安倍首脳会談に緊急抗議! ～武器・セキュリティ産業の共同開発を許さない～

安倍首相は4月1日に武器輸出禁止三原則を撤廃。5月連休中の欧州訪問で武器セールスを繰り返した後、今度は世界屈指の戦争犯罪人を歓待し、武器・セキュリティ産業同士の協力関係の強化を約束した。これに対して、市民有志が緊急の抗議行動を取り組んだ。

ネタニヤフ・イスラエル首相が来日した5月11日、東京・文京区民センターで「ネタニヤフ首相来日を問う緊急集会～日本・イスラエル兵器共同開発に異議あり」が約65人が参加して行われた。

まず、奈良本英佑さん（「アル・ジスル」代表）が、イスラエル人入植者が55万人に達するに至った「中東和平」のまやかしを暴いた。志葉玲さん（ジャーナリスト）は、ガザの人々の「日本はイスラエルに武器を売らないで。その武器が私たちを殺します」との言葉を紹介し、F35戦闘機の共同開発に加わることを批判した。役重善洋さん（パレスチナの平和を考える会）は、世界で進むイスラエル・ボイコットを紹介し、日本の市民も連なろうと呼びかけた。杉原は、三原則撤廃を機に海外軍需企業の「日本詣で」が加速し、一気に様々な案件が動き出していることに警鐘を鳴らした。さらに、栗田禎子さん（千葉大学教授）は、アルジェリア人質事件やF35輸出、南スーダンPKOなど、中東・アフリカ情勢が安倍政権の海外軍事拡大の「突破口」とも「標的」ともなっていると指摘した。

翌12日夕方には、世界で孤立する危険人物二人による首

脳会談が行われているその時間に、首相官邸前で抗議行動を行った。シュプレヒコールをはさみつつ、抗議の声をぶつけた。14日のネタニヤフの京都訪問に対しても緊急の抗議集会が行われた。

今回の取り組みを通して、様々な課題が見えてきた。加速する武器輸出への反対運動を作り出すことは急務だ。当該軍需企業へのアクションや、6月中旬にパリで開催される世界最大規模の武器見本市「ユーロサトリ」への日本初出展に対する反対行動も検討されるべきだろう。一方で、民間企業によるイスラエル進出も加速しつつある。若者の起業支援ファンド「サムライインキュベート」によるイスラエル進出を、朝日やNHKが礼賛している。倫理なき商売には「待った」をかけるべきだ。

さらに、昨年末、米国研究協会がイスラエルへの学術ボイコットを決めたのとは対照的に、日本学術会議は昨年10月、「イスラエル科学・人文アカデミー」と科学技術協力の促進を目的とした覚書を締結した。この恥ずべき決定の撤回も迫ろう。

首脳会談では、国家安全保障当局間の意見交換や閣僚級を含む防衛当局間の交流拡大、自衛隊幹部のイスラエル訪問などが合意された。今後の動向を厳しく監視しつつ、多面的な取り組みを進めたい。

（杉原浩司／秘密保護法を考える市民の会）

# 状況批評

## 勝ち急ぐこと、急がないこと

～「公安は天皇のための尾行をやめろ！共同声明」にご協力ください！～

井上森（立川自衛隊監視テント村）

こんな人生を生きることになった大きなきっかけの一つに、学生時代の先輩で大学院生だったSさんの存在がある。Sさんは在日朝鮮人で、私はSさんによって自分が日本人であるということを初めて真剣に考える機会を得た。まさに青天の霹靂のような思いをたくさんした。

Sさんとの出会いは、朝鮮学校卒業生の国立大学の受験資格を求める運動の中でのことだった。その会議の席上で、私はSさんに「君は勝ちを急ぎすぎる」と諭されたことがある。その時は「勝ちを急ぐ」ことのどこが悪いのかと反発したが、その後の人生でこの言葉をスルメのように、じわじわと大事な局面で何度も噛み締めることになる。「勝ちを急ぐな」――正に至言だと思う。

### ■「判断基準」に依存する運動は限界点を迎える

大衆運動にとって「勝ちを急ぐ」とは何を意味するのだろうか？それは恐らく、ある目的に向けて、既存の秩序・権威・権力をも利用して、最短距離の道筋をたどるべきだという運動観である。

Sさんとの運動経験の文脈で言えば（細かいことはうろ覚えだが）、私は「教授会を動かすのにどの先生を味方につければいいか」とか「学生の共感を得やすい主張をしよう」とか、そんな目先の戦術論ばかり言っていたのだと思う。

もちろん、多数派を作ったり、権力機構の結節点を見極めて働きかける政治技術は、大衆運動には欠かせない。「勝ちを急ぐ」ことも時には必要だし、そういう人が存在するのは大きな力になる。

ただ「勝ちを急ぐ」運動観では、既存の権威や権力、世間の「常識」に対して、ラディカルな批判はできない。最悪の末路は、「天皇陛下が“脱原発”を一言いってくればガラッと変わる」という坂本龍一氏のような考え方に行きつきかねない。

恐らく「勝ちを急ぐ」運動観には、既存の権力・権威、世間の空気といった大きな「判断基準」に依存しようというメンタリティーがある。そういった判断基準を「利用」しているようで、いつのまにかそれに飲み込まれてしまうこともある。

さらにこういう運動観には、致命的な欠陥がある。それは、複数の強力な判断基準が矛盾しあうときには、それを突破する力が生みだせず、立ち止まってしまうことだ。

### ■「9条は大切」だが、自衛隊には反対しない？

具体的に言おう。「9条を守ろう」という運動はたくさんあっても、「自衛隊を解体しよう」という運動はほとんどない。世論調査では「9条維持」を支持している人は約5割いるが、「自衛隊をなくすべき」と答える人は1割以下である。論理的に考えれば、「9条を守る」とは「自衛隊を解体する」と同義以外の何物でもない。だが、「9条は大切」というのが穏やかな（平和な）意見であるのに対して、「自衛隊を解体する」は過激な雰囲気醸し出してしまふ。そうした民衆の空気を反映した結果として、「9条を守ろう」と「自衛隊に（積極的に）反対しない」ということが奇妙な共存をしているの

が昨今の情勢である。つまり、「9条」と「自衛隊」という巨大な二つの判断基準の前で、立ちすくむ運動が増えているわけだ。

### ■天皇に抗議したら半年以上も尾行つき！

話を戻せば、結局大きな判断基準をアテにしようという運動は、力を発揮する時もあるが、どうしようもない壁にぶつかるときもある。だがその壁の地点―複数の大きな判断基準が矛盾する地点―こそ、本当の闘争が始まる場所でもある。実は私もいま、そういう局面を迎えている。天皇に抗議したことを理由に、半年以上も公安刑事に尾行されているのだ。天皇が皇居から出かける日には、自宅近くで刑事が待ち受けていて、職場にも家族での外出先にもついてくる。去年の子どもの保育園の運動会は、刑事の監視つきで観覧した。

尾行というより完全な嫌がらせなのだが、その発端は私の住む町を天皇夫妻が訪れたことである。市は、税金で大量の「日の丸小旗」を発注し、市民に配って「奉送迎」を呼びかけた。天皇の前で「日の丸」一色はマズイだろうと思い、天皇の車列が通る時に「もう来るな」と書いた小さな布を歩道で掲げた。ただそれだけのことなのだが、それで半年も尾行されているのである。

先ほどの議論に関連付けよう。ここでは2つの大きな判断基準が矛盾している。「表現の自由」と「天皇制ならびに警察」だ。普通、布切れ一枚掲げる抗議行動に異論を唱える人は少ない。だがそれが天皇相手であり、しかもそのあとに公安の尾行が続いていとなると、少なくとも人が疑問を持ち始める。「そんなことで尾行されるなんて、本当は何か過激なことをしたんじゃないか」とか、「天皇相手ではしょうがない」とか、そんな印象を持ち始めるのだ。

だが、真実はもっとシンプルだ。この国では、天皇の前では布切れ一枚ほどの表現の自由も保障されていない。「表現の自由」に万全の信頼を寄せている人には、この現実は見えない。あるいは受け止められない。「表現の自由」は強力な判断基準などではなく、不断の闘争で勝ち取らなくてはならないものなのだ。

尾行が始まって以降、いろんな人に「気にするな」という類のことを言われた。私自身もそういう身の処し方をしていた。だがそれは、壁の前で立ち止まる行為に過ぎなかった。ここを突破するのは私自身だけの問題ではない。極めて局地戦だが、賭けられているものは大きいと信じている。同封されている「公安は天皇のための尾行をやめろ！共同声明」に、ぜひご賛同ください。

☆ ★ ☆

最後にSさんに。15年前の私だったら、「布一枚掲げても天皇制がなくなるわけじゃない」という意見だったでしょう。でも「勝ちを急がない」で歩んできた結果、こんなところに行きつきました。悪くない風景です。大切なことを教えてくれて感謝しています。



# 意見広告運動：平和構築のための新しい「物語」

第13期市民意見広告運動は8327人の賛同者を集め、5月3日の朝日新聞全国版、東京新聞に昨年同様見開き2面の多色刷り広告を、また4月28日発売の週刊「アエラ」にも見開き2ページの広告を掲載することができたことをお礼かたがたご報告します。

今回紙面のすみに「私たちの主張についてもっと詳しくお知りになりたい方は小冊子をお送りします」と入れたのを読んだ読者から「小冊子送付希望」の連絡が広告掲載から2週間を過ぎて相次ぎました。意見広告を注意深く読み、興味を持ってくれた読者が多かったのではと思っています。希望者全員に今回の賛同チラシと「市民の意見」の見本誌を送りましたが、この後の反応がどう出るかを注視したいと思っています。

マイナスの反応として、これは事務局に直接届いたものではないのですが、ネットで「朝日新聞・意見広告・殺すな」と検索すると、批判の書き込みをたくさんみることができます。いわく「殺すな。朝日新聞の憲法意見広告がキモイ」「狂気じみた意見広告出現」。意見広告主文をご丁寧にブログに全文掲載したうえで批判している人も発見できました。残念なのはネットのなかで騒いでるだけで、私たちに直接働きかけてくることはないということです（そのような反応は電話が1件、メールが一通のみ）。2006年に読売新聞に「九条実現」

広告を掲載したとき、事務所には意見広告の趣旨に反対の電話、手紙がたくさん寄せられ、私たちはそれぞれに対応したり、返事を書いたりしました（余談になりますが反対意見に対する答えとして「武力で平和は創れない」（非武装パンフ）が作られ、約1万部を完売しました）。変わったのは反対意見を持つ側の態度なのでしょうか？それとも私たちが直接対峙する相手としての価値を失ったのでしょうか？

また、5月12日付朝日新聞首都圏版「声」欄に下記のような投稿がありました。“5月3日の意見広告「未来へ責任、9条実現」はきれいごとに見える。平和のために、具体的でわかりやすい提案を若者に示し、行動せよ”というものです。

人に何かを訴え共感させるには「物語性」が必要です。憲法前文や9条について意見広告の賛同者のある年齢以上の人には「新しい憲法のはなし」などで説かれたような「物語」が刷り込まれていると私などは考えるのですが、その私たちの「物語」の有効期限はもう切れてしまっていることを認めなければならぬのかもしれない。

安保法制懇の報告を受けた安倍総理の記者会見での「エモーショナルでわかりやすい物語」に対抗するには意見広告で述べる内容も強くて新しい平和構築のための物語を作り出すことが必要なのだと私は思います。

（北原博子／市民意見広告運動）

## 憲法を読む『戦争のできる国へ——安倍政権の正体』

斎藤貴男 著  
朝日新書 820円+税

「積極的平和主義」という＜平和＞の大看板をブラ下げ、そう叫びながら、その実、戦後憲法九条（平和主義原理）を全面的に破壊し、あらゆる方向から日本を具体的に戦争を実行することが可能な国につくりかえる。この安倍政権の、現在進行中の許しがたき大暴走。

それが何故、どのように実行されているかを批判的にえぐる作業は、少なからぬ人々によって行われている。本書は、その中でも、飛び抜けてシャープで説得的なものであるといえよう。著者は安倍政権が追い求めて止まない国家のビジョンをズバリとこう規定している。

「衛星プチ（ポチ？）帝国」。

このキーワードについて、著者は、こう説明している。

「すなわち巨大帝国・米国の衛星国（＝属国）ではあるが、そこそこの帝国にもなりたい。国民挙げて飼犬よろしく尻尾を振って、虎の威を借りながらだろと、世界に相当程度の支配力を行使できるキツネーただし大きな一でありたい」。

著者は、第二次安倍政権でインフォーマル（非公式）な国家戦略とされているこのビジョンは、小泉純一郎政権と第一次安倍政権に顕著に現われたものであるが、戦後というより「近代以降における日本の保守層の伝統的ともいえる精神構造」であると論じている。

この「天皇の上に米国」を置く、天皇絶対主義者たちの「憲法改正草案」の国家ビジョンを、憲法改悪手を踏む以前から、「解釈」の全面的変更などをテコに、次々と実現していっ

てしまおうという政策に、著者はまさに多様な切り口から批判的に迫っている。

本書を魅力的にしているのは、「安倍政権と同じか近い立場にいる政治家や財界人、憲法学者たちへの」大量のインタビューである（もっとも、著者はどんなにアプローチしても拒否・無視する「公人」があまりに多かったことを、嘆いているのだが）。

この取材力が、権力（安倍政権）と、その周辺（アメリカのジャパン・ハンドラーたちも含む）の心理と論理にリアルに迫ることを可能にしているのだ（もちろん、彼等の間にある内部矛盾も、よく読める）。

私には、安倍が「積極的平和主義」のスローガンをプチ上げた時から、しきりと想起された事がある。それは第二次大戦直後に書かれたジョージ・オーウェルの「全体主義」国家を描いた近未来小説の『1984年』の中で「真理省」（ミニストリー・オブ・トゥルース）の壁に刻まれていたスローガンである。著者も、ここで紹介している。それを示して、この文章の結びとしたい。

「戦争は平和なり

自由は隷従（れいじゅう）なり

無知は力なり」

この世界の被支配者（民衆）は、その大嘘のコントロールにまったく無自覚であった。まちがいがなく「無知」こそが独裁的政治力の源泉だったのである。

（天野恵一／事務局）

## 反改憲ニュースクリップ

2014年5月1日～5月17日

## 安保法制懇が報告書発表、 集団的自衛権の与党協議加速へ

**【5月1日】〈保守議連〉**超党派の国会議員らで作る「新憲法制定議員連盟」が大会を開く。会長の中曽根康弘元首相は、改憲手続法改定案に与野党8党が賛成したことについて「改憲実現に大きな前進」と歓迎。

**【5月3日】〈憲法記念日〉**日本国憲法の施行から67年のこの日、改憲派・護憲派などが各地で集会を開く。〈自民党〉自民党の船田元・憲法改正推進本部長が「(環境権や緊急事態条項など)国民の理解が得やすい項目を第一弾として実施し、国民投票に慣れてもらう」と発言。9条については「議論が分かれている。万が一否決されたら、しばらく発議できない」と慎重姿勢を見せる。〈集団的自衛権〉訪米中の石破茂・自民党幹事長が、集団的自衛権の行使を可能にするための法整備について「自公の合意が7、8月までずれ込めば(秋の)臨時国会では無理だ」と述べ、先送りを示唆。他方、離島などの領域警備を強化する法整備を臨時国会で先行させる考えを示す。

**【5月5日】〈集団的自衛権〉**安倍政権が、憲法解釈変更の閣議決定に先だって策定する「政府方針」の骨格を固める。自衛隊活動の地理的制約は盛り込まない方針。その上で、「政治判断」として、他国の領土・領海・領空を除外し、日本領域と公海上に限定する意向。〈武器輸出〉安倍晋三首相がフランスのオランド大統領とパリで会談。無人潜水機などの武器共同開発を進めるための協定締結交渉開始で一致。原子力推進でも協力に合意する。

**【5月7日】〈集団安保〉**政府が、国連決議に基づく多国籍軍への自衛隊支援活動を拡大する方向で検討に入る。戦闘中の他国軍隊に燃料・水・食糧等の補給や医療支援を可能とする。これまでは「他国による武力行使との一体化」として禁じられてきた。〈福島原発〉東電福島第一原発事故直後の作業で被ばくした作業員が、「現場に高濃度汚染水があったことを隠して作業させた」として、東電や関連会社に損害賠償を求める訴えを福島地裁に起こす。

**【5月8日】〈邦人救出〉**政府が、海外で緊急事態が起きた際に自衛隊による邦人救出を可能とする法整備を検討していることが判明。〈秘密保護〉昨年12月～今年3月に開かれた国家安全保障会議の議事録を不開示とする決定を政府が下したことが、情報公開法に基づく開示文書で判明。〈原発政策〉原子力規制委員会が、九州電力が再稼働をめざす川内原発1、2号機の審査会を開き、九電の提出書類に42件の記載漏れがあることを指摘。他方で規制委は、記載漏れは重大な問題ではないとの見方も示す。

**【5月9日】〈改憲手続法〉**改憲手続法改定案が与野党7党の賛成多数により衆議院で可決、参院へ。〈集団的自衛権〉安倍首相が自民党の石破幹事長と会談し、公明党との与党協議を秋の臨時国会までに決着させるよう指示。〈原発政策〉関西電力大飯原発3、4号機は地震により深刻な事故が起きる可能性があるとして、再稼働させないよう住民らが求めている仮処分の決定で、大阪高裁が住民側の申し立てを却下。

**【5月10日】〈自民党〉**自民党の船田憲法改正推進本部長が、

2年後の次期参院選前に改憲原案が国会提出されているのが望ましいとの考えを示す。他方、96条先行改正については「相撲を取るときに最初に『土俵を狭くしてくれ』というのはフェアプレーに反する」として否定。〈集団的自衛権〉政府が、集団的自衛権の行使要件のうち、「日本の安全に影響が出る場合」について、「事案の規模、態様、推移などから、放置すればわが国に戦果が及びかねない状況」と補足説明する案が浮上。〈辺野古〉政府が、来年春ごろの着工を見込んでいた名護市辺野古での米軍基地建設工事を、今年秋に前倒しする方向で検討していることが判明。

**【5月13日】〈辺野古〉**沖縄防衛局が名護市辺野古沿岸部の海底ボーリング調査事業の入札を開始したと明らかに。

**【5月14日】〈集団的自衛権〉**公明党の山口那津男代表が「集団的自衛権や安全保障にばかりエネルギーを費やすと見られれば、国民の期待とずれる」と発言。〈原発政策〉関西経済連合会と九州経済連合会の幹部らが原子力規制庁を訪れ、再稼働に向けた審査の迅速化を要請。

**【5月15日】〈集団的自衛権〉**安保法制懇が安倍首相に報告書を提出。集団的自衛権行使の解禁、集団安全保障への参加、いわゆる「グレーゾーン事態」など、幅広い憲法解釈の変更を求める。これを受けて安倍首相が会見を開き、集団的自衛権等の解禁に向けて解釈変更を検討することを改めて表明。

〈集団安保〉公明党の山口代表が「駆けつけ警護」について、「(他国による)武力行使との一体化にならない範囲で検討する」と前向きな姿勢を示す。〈医療介護〉衆議院で地域医療・介護総合確保推進法案が可決。介護の必要度が低い要支援1～2の一部サービスを市町村に移行することが柱。地域格差が激しくなると批判が出ていた。他に、一定以上の所得がある利用者は、2015年8月から自己負担割合を1割から2割に引き上げる、などの内容。

**【5月16日】〈集団的自衛権〉**創価学会が、集団的自衛権の行使容認について「本来の手続きは、一内閣の閣僚だけによる決定ではなく、憲法改正手続きを経るべきだ」として反対する見解を示す。〈内閣法制局〉政府が、体調不良が続いていた小松一郎内閣法制局長官を退任させ、横畠裕介内閣法制次長を昇格させる人事を決める。

**【5月17日】〈自衛権〉**公明党が、外国潜水艦が日本領海から退去しない場合などを想定したいわゆる「グレーゾーン」における自衛隊の任務拡大を容認する方向で調整に入る。武器使用基準の緩和を軸に自民党との協議へ。〈集団安保〉自民党の石破幹事長が、国連決議に基づく多国籍軍への参加について「何年か経って国民の意識が変わった時に、『日本だけが参加しない』というのは変わるかもしれない」と発言。〈福島原発〉漫画「美味しんぼ」で放射線被ばくによって鼻血が出たかのような描写があったことについて、安倍首相が「放射性物質に起因する直接的な被害の例は確認されていない」と否定する。福島県立医大視察後の発言。

# 私も一言 195

青山晴江 (再稼働阻止全国ネットワーク・スタッフ)

国内難民となった被災者たちに支援停止通知書が届いたとき、彼らは言った。「俺たちは国に見捨てられた。」これは9年前アメリカ南部を襲ったハリケーンで棄民となった人々の話である。日本の福島ではさらに原発爆発の放射能被害の悲惨さが追い打ちをかける。政府の圧力のせいか自治体の対応は心許ない。

郡山の古いアパート階段脇に昨年からあったビニール袋が破れ中から草が生えていた。線量計を置くと、なんと6.82

μSv。通常の100倍以上の高線量である。すぐ傍の道を小学生が通る。市役所に掛け合うと「今のところ対策はない」と言われた。理由は5つ。空間線量は0.43μSvで高くない。除染業者に聞き取りをしたが、彼らが置いたものではないと考えられ業者に落ち度はない。汚染土の保管場所がない。除染作業も終了したので予算がない。取り除いた後またあとから置かれても困る。近寄らないようにして、とのことだった。ふつつつと怒りとやるせなさがこみあげる。危険な放射能廃棄物と隣り合わせにフツウに暮らせますか？ どうしようもない、この非日常的な日常の状況。

役所に「撮った写真と今の5つの理由を東京の勉強会で伝えます」と言っておいたら、数時間後に電話が入り、近くのコンクリートリングの缶に高線量の袋だけ移しました、との連絡。憲法第25条の「健康で文化的な生活」とは程遠いが、しかしその憲法ですら今は必死に守らねばならない。どこの国でもしわ寄せは弱者にくる。声を上げ続け、再稼働を認めぬ判決を出した福井地裁のような希望へとつなげたい。

## 集会・行動情報 6/1 ~ 6/17

▶6月1日(日)川内原発再稼働やめろ 官邸・国会前  
★大抗議◆14:00~◆首相官邸前・国会議事堂周辺(東京メトロ国会議事堂前駅、霞が関駅、永田町駅、桜田門駅)◆首都圏原発連合

■戦争への暴走STOP! 御堂筋パレード◆集会13:30、パレード出発14:15◆中之島公園女性像前(京阪なにわ橋駅、京阪・地下鉄淀屋橋駅下車)◆同実行委員会

▶6月4日(水)福島原発告訴団「人間の鎖」&集会◆12:00:人間の鎖行動◆東京検察審査会(東京地裁)(東京メトロ霞ヶ関駅下車)◆14:00:集会◆講演:湯浅一郎(ピースデポ代表)「海の汚染について」◆日比谷図書文化館コンベンションホール(東京メトロ霞ヶ関駅、都営地下鉄三田線内幸町駅下車)◆福島原発告訴団

▶6月8日(日)STOP再稼働! テント1000日 6・8集会◆資料代1000円◆講演:神田香織「福島の祈り ある母子避難の声」◆発言:洲上太郎、中嶋哲演、武藤類子、河合弘之、ミサオ・レッドウルフ◆14:00~◆明治大学リバーティホール(JR中央線・東京メトロ丸の内線御茶ノ水駅下車)◆共催:経産省前テントひろば、テントひろば応援団

▶6月12日(木)戦争をさせない全国署名提出集会・デモ◆18:30◆日比谷野外音楽堂(東京メトロ霞ヶ関駅、都営地下鉄三田線内幸町駅下車)◆戦争させない1000人委員会

▶6月13日(金)ストップ再稼働! 川内原発 県議会「再稼働させない」行動集会——要援護者の避難計画不備を問う◆第1部9:00~、第2部12:45~◆鹿児島県庁前◆ストップ再稼働! 3・11鹿児島集会実行委員会

▶6月14日(土)辺野古に基地はいらない 沖縄意見広告報告集会◆資料代800円◆報告:伊波洋一、吉川秀樹、安次富浩ほか◆18:00◆連合会館2階大ホール(JR御茶

ノ水駅、東京メトロ千代田線新御茶ノ水駅、都営地下鉄新宿線小川町駅下車)◆第5期沖縄意見広告運動

■紛争と女性~戦時下の性暴力をなくすために◆資料代800円◆映画「ゲリラからの脱出~誘拐された少女兵たちの8カ月~」◆討論パネリスト:玉元英子、渡辺美奈、坂上香、ファッションレーター:寺中誠◆14:00◆青山学院大学青山キャンパス17号館17510教室(JR・私鉄渋谷駅、東京メトロ表参道駅下車)◆アムネスティ・インターナショナル日本、青山学院大学人権研究会

■集団的自衛権反対! 改憲を許すな! 練馬基地撤去デモ◆13:00集合、14:00デモ出発◆徳丸第二公園(東武東上線東武練馬駅下車)◆反安保・反自衛隊・反基地闘争を闘う東京北部実行委、有事立法・治安弾圧を許すな! 北部集会実行委

■第7回ゆんたく高江◆ライブ:知久寿焼、つちっくれ、安次嶺雪香、トーク:石原理絵、安次嶺雪香など◆12:00会場◆新宿NPO共働推進センター(JR山手線、西武新宿線高田馬場駅下車)◆第7回ゆんたく高江実行委

■どこへ行くのか、自衛隊——集団的自衛権行使で何が変わるのか◆参加費800円◆お話:半田滋(◆13:30◆千駄ヶ谷区民会館第1会議室(JR山手線原宿駅下車)◆ふえみん婦人民主クラブ

▶6月15日(日)2014年の中東——イラン核問題とシリア情勢◆講演:高橋和夫◆16:00◆中央大学駿河台記念館610号室◆パレスチナ子どものキャンペーン

▶6月17日(火)閣議決定で「戦争する国」にするな! 解釈で憲法をこわすな! 6・17大集会◆18:30◆日比谷野外音楽堂(東京メトロ霞ヶ関駅、都営地下鉄三田線鬱幸町駅下車)◆「解釈で憲法9条を壊すな!」実行委員会

▶「反改憲」運動通信:1部 200円(月2回発行/第9期:2013年6月~2014年5月)

▶事務局・連絡先:〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-21-7 静和ビル2A 淡路町事務所気付

▶Tel & Fax: 03-3254-5460 ▶E-Mail: han-kaiken@alt-movements.org ▶Web: http://www.alt-movements.org/han-kaiken/

▶年間定期購読料:4,000円(2013.6~2014.5) ▶郵便振替:00190-7-11558 「反改憲」運動情報通信